

ここで見られる植物：ウバメガシ（Oak; *Quercus phillyreoides*）

常緑樹のウバメガシは、高さによって低木とも高木とも考えることができ、中には 10m の高さに達するものもあります。沿岸部や急斜面な崖地の痩せた土壌を含む温暖な地域でゆっくり育ち、強風が打ち付けるような場所にも耐えることができます。ウバメガシは徳島沿岸で多く見られ、鳴門公園などで見ることができます。その硬い材は古くから日本各地で炭を作るのに使われてきており、これには備長炭として知られる高級品種も含まれます。

ウバメガシの葉は楕円形でたまに細長いものもあり、上半分の周りは鋸歯状になっています。5 月頃になると黄色い小花が多数咲き、雄花が新枝の下部からぶら下がる一方、雌花はこれらの新枝の上部に咲きます。楕円形や紡錘形の果実は、成熟すると茶色に変化し、枝から落ちます。